



10月はシートベルト・チャイルドシート着用強調月間

令和元年中の交通事故統計からシートベルトの着用率をみると、交通事故を起こした人の着用率は低く、特に死亡事故では**61.8%**と目立ちました。

また、後部座席同乗者は、運転者や助手席同乗者より着用率が低く事故時の死亡リスクが高くなりますので、全ての座席でシートベルト・チャイルドシートを正しく着用しましょう。

令和元年、県内のシートベルト着用率

	対象数	着用者	着用率
死亡	35人	21人	61.8%
重傷者	200人	166人	83.0%
軽傷者	3,742人	3,589人	96.0%

※死者の中にシートベルト適用除外者が1人。

シートベルト・チャイルドシート着用（使用）状況（警察庁とJAFとの合同調査による着用率（単位%））

乗車区分等 調査年・道路		運転席		助手席同乗者		後部座席同乗者		チャイルドシート	
		岐阜県	全国	岐阜県	全国	岐阜県	全国	岐阜県	全国
令和元年	一般道	98.5	98.8	97.2	95.9	53.3	39.2	85.2	70.5
	高速道路	98.9	99.6	98.9	98.3	71.6	74.1		
平成30年	一般道	98.5	98.8	94.2	95.9	51.2	38.0	83.7	66.2
	高速道路	99.5	99.6	98.6	98.5	64.2	74.2		

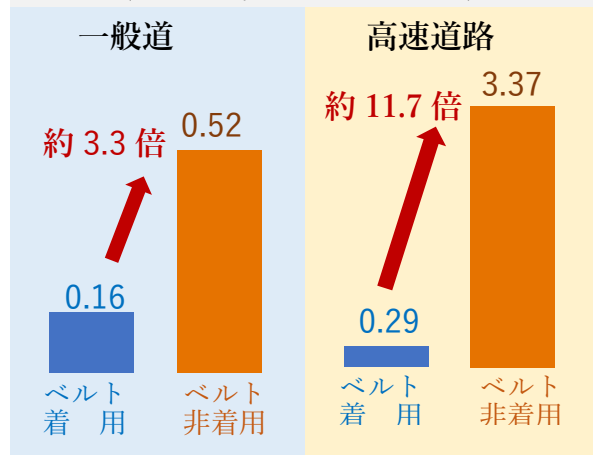
県内死者のシートベルトの着用状況（令和元年）

区分	着用	非着用	計	被害軽減有	
運転者	16	12	28	8	
構成率	57.1%	42.9%	100%	66.7%	
同乗者	助手席	5	0	5	0
	後部席	0	1	1	1
	計	5	1	6	1
	構成率	83.3%	16.7%	100%	100%
総計	21	13	34	9	
構成率	61.8%	38.2%	100%	69.2%	

※県警統計資料

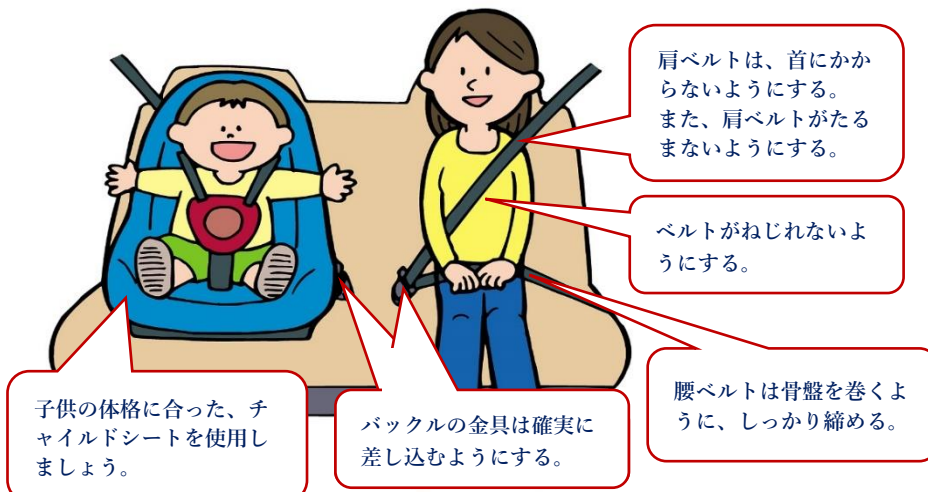
後部同乗者のベルト着用別致死率

（平成22～令和元年合計：警察庁）



※ 致死率 = 死者数 ÷ 死傷者数 × 100

シートベルトの正しい着用方法



シートベルト着用の効果

シートベルトは正しく着用すると、交通事故発生時に身体を座席に固定し下記のような被害の軽減効果が期待できます。

- ① 車内の窓や前席などで身体を強打するのを防いでくれる。
- ② 壊れた窓などから車外に放り出されるのを防いでくれる。
- ③ 前席に衝突して同乗者に怪我をさせるのを防いでくれる。